

**2017年度(平成29年度)**

**港北区災害ボランティア連絡会**

**総 会 資 料**

1. 2017年度(平成29年度) 役員の選任
2. 2016年度(平成28年度) 振り返り
3. 2016年度(平成28年度) 事業報告
4. 2016年度(平成28年度) 決算報告
5. 2017年度(平成29年度) 事業計画(案)
6. 2017年度(平成29年度) 予算(案)

2017年(平成29年) 5月17日(水)

午前10:00～

於 港北区福祉保健活動拠点

## 2017年度(平成29年度) 役員

役職	役員名	
会長	白井 保	
副会長	宇田川 規夫	高根澤 恵子
会計	付岡 博子	小澤 美津子
書記	中島 一郎	村野 明美
監査	山中 奈子	田北 孝紀
広報	山本 正史	木村 志義

## 2016年度 振り返り

2016年度も、台風、地震、大火、豪雨、大雪災害で日本各地に災害ボランティアセンターが開設され、多くのボランティアの力を集めて被災地支援を行いました。特に熊本地震は震度7が二回発生する、二回目に本震が発生する、など今までに無い地震の発生や、災害関連死が直接死の三倍以上に上がるなどの大きな教訓をもたらしました。避難所に入りきれないほどの人口を抱える横浜市でも人ごとでは有りません。局地的豪雨が多発する昨今、港北区でも水害被害が見直され、浸水が7mに及ぶと想定される地区もあり、油断はできません。

それに応えるために2016年度は3本の活動の柱を立て、力量を高めることを目指しました。

### ●やったこと

#### (1)「会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ」

好評の災害手話を続けました。また会員による災害食の試作会も行い、会員の力を出しながら、力をつける活動を行いました。歓送迎会や忘年会、女子会も開かれ、会員同士の親睦をはかったのは好評でした。

#### (2)「地域とつながり、命を守る知恵を出す災ボラ」

地域・区からの要請に応え、太尾地域防犯拠点センターを使っての災害ボランティアセンター開設の訓練を2016年9月23日(金)・2017年1月20日(金)の2回実施しました。増設したトランシーバーを使っての情報伝達訓練は実践的でした。

#### (3)「地域、被災地とつながり、汗をかいて動く災ボラ」

会として初めての募金活動を、熊本地震支援として行いました。集まった募金は会員として提携している名古屋のレスキューストックヤードに送り、被災地支援に役立ててもらいました。

Dブロック会議での他区との交流、常総市ツアーでのJUNTOSや森下町の役員の方々との交流では、多くのことを学ぶ事が出来ました。特に常総市ツアーでは参加した町内会関係者を含む多くの方から「現地をみて良かった」との声が上がったことは、現場が語る力の大きさを物語っており、今後も外部と積極的につながる意義を感じます。

また会の活動を知らせるための通信は50号を越え、フェイスブックを開設し、ホームページはより見やすく、情報を的確に外部発信するための改訂を実施中です。

物販活動も積極的に行ったおかげで自主財源を確保できたことは大きな意味がありますし、被災地を忘れないと言うメッセージを区民に送ることもできたと思います。

パシフィック横浜で毎年開催される震災対策技術展には多くの会員が足を運び、最新の防災知識を身につけてきました。

## ●できたこと

防災手話、非常食試食会などは会員の持っている力を定例会で広める良い企画だと好評でした。会員それぞれが持っているスキルを会員間で共有し、会員の力量を高めていく事につながったと思います。

太尾防犯拠点センターを使つての訓練は準備が時間的に厳しい中で2回行い、区との連携を確認する良い機会となりました。また大倉山地区の役員の方とつながることをきっかけに町内会や防災拠点への取り組みを具体化する一歩を踏み出せたと思います。

熊本地震支援の募金活動は区民の方の関心が具体的に分かる機会となりました。発災直後だったこともあり、多くの募金が寄せられましたが、時間が経つと大幅に減る事実もあり、素早い対応が必要なことを知りました。

初めての具体的な被災地支援活動となった常総市とのつながりも2年目となり、セミナーから見学会へと、多くの会員や区民が現地で学ぶことができました。聞くと見るとは大違い、が実感され現場に行くことの重要性が確認できたと思います。このつながりは大切にしていきたいと思います。

新会員として、3団体が新たに加入してくれました。

## ●課題

しかしこれらの活動や定例会への参加メンバーが固定化している傾向が見られます。多くの会員の参加を目指して夜間開催を行っても、最近はあまり変化をもたらしていません。

会員の声を届けるための仕組み(ML、ニュース)を活用し、参加できなくても意見表明するとか、ニュースを周りに配布するなど、個人の事情に合わせてできる形での防災ボランティア活動を目指していきたいと思います。

また災害ボランティアセンター運営能力を高めるための訓練では、多くの会員がまだ災害ボランティアセンターを具体的にイメージできないため、訓練結果を深める事が出来ない問題点も指摘されました。

拠点との関係作りもなかなか進みませんでした。区の地域防災拠点運営委員会総会で災害ボランティア連絡会の紹介をする時間を貰っていますから、それに対応する知恵と力をもっとつけて役に立つ災ボラを知ってもらう必要があります。まずは会員の関係する拠点を足がかりに地域連携を作り上げる事が求められます。

政府・地震調査委員会の2017年版の全国地震動予測地図では横浜市は81%と千葉県に次ぐ全国第二位の高い発生予測が出されました。残念ながら地震は必ず起きます。全ての被災地で起きている大事な家族を失う哀しみ、生活基盤を失う苦しみは明日の横浜市民の姿であることを忘れてはなりません。全ての会員が防災を自分ごととして捉え、積極的に我が家の防災力向上と地域の防災力向上へ向けて動き、そしていざというときの災害ボランティアセンター運営の力をつけるための努力と工夫はまだ必要です。そのためには会員にはもっと外ともつながり、外部から学び、その知識を地域に還元するための汗をかく事が求められます。

## 2016年度(平成28年度) 活動報告

### 1 定例会の開催日 会場: 港北区福祉保健活動拠点 多目的研修室

---

2016年04月20日	(水)	10:00～	24名出席
2016年05月18日	(水)	10:00～	25名出席(総会27名)
2016年06月15日	(水)	10:00～	21名出席
2016年07月20日	(水)	18:30～(夜間開催)	25名出席(団体交流室I)
2016年09月21日	(水)	10:00～	25名出席
2016年10月19日	(水)	18:30～(夜間開催)	22名出席
2016年11月16日	(水)	10:00～	22名出席
2016年12月21日	(水)	10:00～	22名出席
2017年01月18日	(水)	18:30～(夜間開催)	21名出席
2017年02月15日	(水)	10:00～	19名出席
2017年03月15日	(水)	10:00～	20名出席

### 2 役員会の開催日 会場: 港北区福祉保健活動拠点 団体交流室

---

2016年05月06日	(水)	18:00～
2016年06月03日	(水)	18:00～
2016年07月04日	(水)	18:00～
2016年08月29日	(水)	18:00～
2016年09月14日	(水)	17:00～
2016年10月06日	(水)	18:00～
2016年11月02日	(水)	18:00～
2016年12月01日	(水)	18:00～
2017年01月10日	(水)	18:00～
2017年02月07日	(水)	18:00～
2017年03月06日	(水)	18:00～

### 3 災害ボランティアセンター運営シミュレーション

---

- (1) 日時 : 2017年02月19日(日) 10:00~12:30
- (2) 会場 : 港北区福祉保健活動拠点 多目的研修室
- (3) 参加者 : 25名
- (4) タスク : 木村、中島(美)、坂上、鈴木、古川、宇田川、山本
- (5) 内容 : 港北区内で最大震度7を観測する地震が発生し多数の被害が出たという想定で運営訓練を行った。
- ① 港北区役所高齢障害支援係長 広瀬さんより区役所の要援護者対応についての話。
  - ② 港北区社会福祉協議会 藤原さんより災害時の社協の対応についての話
  - ③ 写真を使って災害ボランティアセンターを説明。受付・登録、送り出し、フォローについての説明。
  - ④ ボランティア対応の受付・登録、送り出し、フォローの訓練。
  - ⑤ グループに分かれて災害ボランティアセンターと要援護者のかかわりについて話し合い。
- (6) 振り返り :
- ・ 今年度のシミュレーションは、要援護者対応をテーマとして、障がい者セーフティネット分科会の方から伺ったお話をもとに、要援護者の方々のニーズを考えたが、要援護者の方々からのヒヤリングを深くすればより良い内容にできたと思える。
  - ・ 定例会でコーディネーターハンドブックの読み合わせを行ってきたが、連絡会会員のコーディネーターとしての能力向上はみられなかった。連絡会会員のシミュレーション参加の少なさも問題である。
  - ・ ほとんどの会員が災害ボランティアセンターの現場を経験しておらず、災害ボランティアセンターでどうふるまえばよいかイメージできないのが原因であると思われる。

### 4 災害ボランティアコーディネーターハンドブック改訂

---

定例会でハンドブックの読み合わせを行い、修正箇所の洗い出しを行った。

## 5 関東・東北豪雨災害 常総市支援活動

(1) 日時・活動参加者 :

2016年06月19日 (日) 4名 常総市保健センター  
自身も阪神淡路大震災でご家族を亡くされた森佑理さんが歌う「うたのおねえさんコンサート」のお手伝い

2016年07月25日 (日) 4名 常総市保健センター  
堤防決壊で水害被害を受けた常総市と、東日本大震災で津波と放射線双方の被災をした福島県の方との交流会  
「母ちゃんの力プロジェクト協議会」代表渡辺とみ子さんのお話しとお茶会のお手伝い

2016年08月11日 (木・祝) 3名 鬼怒川花火大会  
町内会でだすお祭りのお店のお手伝い

(2) 支援の経緯 :

- ・ 2015年の災害時の支援ボランティア活動を継続できないかと検討中に、NPO法人 コモンズ代表理事 横田さんより復興活動の支援を打診された。
- ・ 2016年6月に区役所に企画案を提出し、事業活動として認められる。
- ・ 森下町 地域役員染谷氏を紹介され、地元のお茶会※支援を行う事を決定。
- ・ 年度途中で地元の団体が自主運営できることが確定し、お茶会支援終了。

### ※お茶会

2016年4月時点で常総市森下町では集会場などが復旧しておらず、「地元の皆と会いたい、寂しい」との声が多かった。そこで地域役員が中心となり皆が集まれる場作りを企画したもの。

(3) 今回の活動で得られたこと :

お茶会の意義を知る事ができた。森下町地域役員と知り合うきっかけができ、セミナー・視察ツアーへとつなげることができた。

(4) 今後について : 常総市で行われる行事に参加して、支援活動を継続する。

## 6 セミナー

(1) 日時 : 2016年11月27日(日) 10:00~12:30

(2) 会場 : 港北区福祉保健活動拠点 多目的研修室

(3) 参加者 : 29名

(4) タスク : 白井、高梨、児玉、村野、鈴木(智香子)、小松、山口、小澤

(5) 内容 : 常総市から学ぶ ～地域との連携～

1部 常総市の事例 ～災害時にどう地域とつながっていったか～

NPO法人 コモンズ代表理事 横田能洋さん

常総市森下町 地域役員 染谷みどりさん

2部 パネルディスカッション ～災害時における地域連携はなぜ必要？～

パネリスト・横田能洋さん、染谷みどりさん

コーディネーター・宇田川規夫

(6) 振り返り :

- ・ 「被災された方の体験談と映像で大きな災害であったことがわかった」  
「平常時の地域のつながりが大切だということがわかった」  
「被災者の立場、支援者の立場、そして町内会の立場それぞれの話から現状が把握できた」 などの感想がよせられた。
- ・ 染谷さんの講演で「見てみよう常総」の話があり、参加者より現地視察の希望が出、3月の視察ツアーを実施することとなった。

## 7 視察ツアー

(1) 日時 : 2017年03月12日(日)

(2) 日程 :

8:00	JA横浜港北支店 集合出発 (宮浦観光 大型バス)
10:00	常総市森下町JUNTOS到着 2グループに分かれて <ul style="list-style-type: none"><li>・ JUNTOSにて災害時の状況と復興活動の説明</li><li>・ 森下町町内をまわり、実際の被災地の状況をみる</li></ul>
12:20	避難所となったあすなろの里へ移動 避難所開設時に食事などをして、被災者が過ごした食堂で昼食 食堂運営の方から当時の話を伺う
14:00	バス車中より決壊箇所の視察 支援活動のお買い物
16:00	森下町出発
18:30	JA横浜港北支店 到着・解散



- (3) 参加者 : 40名 (災ボラ11名、事務局3名、一般26名、手話通訳2名)
- (4) お世話になった方々 : (敬称略)  
 常総市森下町地域役員 染谷みどり、NPO法人コモンズ代表理事 横田能洋  
 森下町区長 西堀、民生委員 中久喜幸夫、常総市社協次長 神林健  
 地域ボランティア ワタナベ、米山、中村、今村、おふくろ亭  
 青柳製麺 SeRV(真如苑ボランティアグループ)、筑波大学インターン
- (5) タスク : 高梨、児玉、小松、山口、村野、小澤
- (6) 振り返り :
- ・「現地で被災者の方から直接話を聞きながら見学ができたことが良かった。」  
 「横田さんのねばり強い支援と染谷さん他地元の方の明るさに感激した」  
 「まだまだ大変なことばかりですが、応援し続けます」 の意見が多かった。
  - ・ 見学のコーディネートは森下町役員にお任せしたが、災害ボランティアセンター見学や運営した社協のお話しも伺いたかった。
  - ・ 手話通訳同行は聴覚障がい者に好評だった。

## 8 連絡会ニュース

- (1) 港北区災害ボランティア連絡会ニュース発行 \*毎月発行2017年04月で53号
- (2) 編集担当 : 宇田川、山本、山口、PRタスク
- (3) 内容 : 連絡会イベント、地域の諸団体の防災への取り組み紹介、国内外の防災の動き、防災グッズ紹介、など。  
 特に1月号は50号と重なったため、区長からのメッセージを掲載した他、連絡会参加団体が災害時にどのような活動をするかも含めての一言特集を掲載し、参加団体の災害時対応力を確認した。
- (4) 配布先 :
- |             |  |
|-------------|--|
| 地域関係        | 仲手原自治会、篠原連合町内会、大倉山連合町内会、富士塚自治会、篠原地区民生委員、地域防災拠点(太尾小、高田東小、北綱島小、矢上小)  |
| ボランティア団体・企業 | Weショップ、かれん、富士塚ボランティアグループ、篠原地区ボランティア連絡会、手話サークルあじさいの会、港北区地域子育て拠点どろっふ、びーのびーの菊名広場、ボーイスカウト横浜第8団、大倉山おへそ、横浜北部失語症友の会、精神保健福祉グループ「あみねっと」、福祉パル生協、ペガサス |
| 公共団体・施設     | 港北消防署、消防団、港北区役所区民活動支援センター、かながわ県民活動サポートセンター、地域ケアプラザ、地区センター、鶴見川流域センター、横浜ラポール、神奈川新聞、港北国際交流ラウンジ、港北土木事務所、資源循環局港北事務所                             |

その他 記事に掲載された方、団体、横浜市災害ボランティアネットワーク会議を通じ、各区社協と災害ボランティア団体、連絡会参加団体と個人を通じての手渡しやメール配信  
連絡会ホームページにも掲載

\*バックナンバーは宇田川副会長保管

連絡会としてイメージキャラクター「サイボくん」を作成。



## 9 ホームページ・メーリングリストでの情報共有

---

- ・ 会員MLには40名、役員MLには区担当者も入って頂いている。
- ・ 共有内容:会からの連絡、大きな災害の情報、災害ボランティアの活動状況、イベントのお知らせ、ボランティア活動の募集、など

## 10 横浜災害ボランティアネットワークでの活動

---

- (1) 総会 : 2016年06月20日(月) 横浜市健康福祉総合センター  
講演 園崎秀治さん(全社協全国ボランティア・市民活動振興センター副部長)  
「熊本地震報告」
- (2) 災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修 :  
2016年11月11日(金) 横浜市健康福祉総合センター  
講師 明城徹也さん  
(全国災害ボランティア支援団体ネットワークJVOAD事務局長)  
「災害ボランティアセンターを支援する団体との連携について」
- (3) 図上シミュレーション  
2017年02月05日(日) 横浜市健康福祉総合センター  
「各区災害ボランティアセンターの立ち上げと相互援助」
- (4) Dブロック会議  
2016年05月12日(木)、2017年02月25日(土)

## 11 地域との協同行動

### (1) イベントへの参加

それぞれの会場で、連絡会のパネルを展示したり、ニュースや会の案内チラシを配布した。あわせて、被災地支援のための物販を実施した。

2016年04月24日（日）	ボーイスカウト横浜第8団バザー
2016年05月15日（日）	らくらく市
2016年06月11日（土）	どろっぷデー
2016年08月06日（土）	菊名桜山フォレストJAZZ
2016年09月22日（祝・木）	鶴見川流域センター・チャレンジ！防災アクション
2016年10月16日（日）	ミニらくらく市
2016年10月22日（土）	港北ふれあい祭り
2016年10月28日（金）	ほくほくフェスタ
2016年10月29日（土）	カーボン山感謝祭
2016年11月12日（土）～ 13日（日）	新田地区センター文化祭

### (2) 他団体との協働

2016年11月18日（金） 地域防災拠点運営委員会総会で発表

2017年02月17日（金） 自立支援協議会セイフティーネット分科会

「災害時障がい児者支援について」

- ・ 自立支援協議会セイフティーネット分科会でシミュレーションに向け、要援護者支援について話し合った。

2017年03月06日（月） 「咲良」防災企画「災害時要援護者支援を考える」後援

- ・ 「咲良」の防災企画「災害時要援護者支援を考える」への後援を行い、会員も参加した。

- ・ 名古屋市の防災団体「レスキューストックヤード」の賛助会員となり、全国の防災情報を得ることにつながった。

## 12 災害手話

毎月の例会で聴覚障害のある会員から指導を受けた。手話の難しさも分かったが、それ以上に一言でも良いから手話で話しかけられたら相手は安心すること、その後は筆談でも構わないことを知った。

情報を得るためには、常に周りの動きに気を配らなければならず、とても疲れることも知った。そのためには個別対応が必須になる。

情報弱者を無くすためには、情報提供のために様々な方法を使う必要がある。

## 2016年度 港北区災害ボランティア連絡会 決算書

(単位:円)

2017.3.31 作成

	科 目	決算額	予算額	差 額 (決算-予算)	説 明
収 入	会費	73,000	77,000	△ 4,000	登録40 21団体、個人19 @500×96口 @5,000×5口(賛A)
	参加費	46,800	52,000	△ 5,200	
	セミナー	5,800	12,000	△ 6,200	資料代@200×29名
	シミュレーション	0	0	0	参加費無料
	その他の活動	41,000	40,000	1,000	見学会@1,000×41
	区補助金	300,000	300,000	0	
	社協補助金	73,136	74,000	△ 864	
	雑収入	323,797	85,000	238,797	物品売上 274,286 寄付(宇田川物品扱い分) 49,510 利息 1
	前年度繰越金	76,361	76,361	0	
	<b>収入合計額</b>	<b>893,094</b>	<b>664,361</b>	<b>228,733</b>	
支 出	<b>事 務 費</b>	<b>545,155</b>	<b>360,000</b>	<b>185,155</b>	
	通信費	30,996	45,000	△ 14,004	通知文・ニュース・イベント案内送付(事務局分含) 等
	消耗品	72,900	75,000	△ 2,100	封筒代金(角2・長2 2,000枚) 事務用品、文具、コピー紙 等
	会議費	14,933	20,000	△ 5,067	コピー代金・リソ分(ニュース、資料など)(事務局分含)
	交通費	20,000	20,000	0	役員会交通費 @2,000×10
	活動保険	19,510	15,000	4,510	@430×7=3,010(28年度分) @500×33 (29年度分)
	分担金	15,270	15,000	270	横浜災害ボランティアネットワーク年会費 RSY登録年会費(手数料込)
	手話通訳費	81,728	75,000	6,728	手話通訳謝金(セミナー、シミュレーション、見学会 各2名)
	支援ボランティア活動	289,818	95,000	194,818	物品仕入代金 251,771 物販資材(ビニール袋 試食 ポップなど) 4,378 イベント支援交通費・お礼品・反省会・その他 33,669
	<b>事業費</b>	<b>300,165</b>	<b>300,000</b>	<b>165</b>	
	セミナー	39,709	70,000	△ 30,291	講師謝礼、印刷費、講師・手話通訳交通費 等
	シミュレーション	10,475	15,000	△ 4,525	コピー・印刷費、コピー紙、行事保険 等
	ハンドブック	297	5,000	△ 4,703	ハンドブック改訂コピー代金、 等
	リーフレット	0	5,000	△ 5,000	コピー代金、文具 等
	研修会費	158,214	100,000	58,214	見学会バス代(振込料込)、講師謝礼、資料印刷費、行事保険、 等
活動費	30,042	30,000	42	ネットワーク関連交通費、無線機開設・利用料金、インク代金、 名刺用シート、ラミネートシート、資料印刷費、災害食経費、 イベント参加費 等	
備品購入費	47,432	58,000	△ 10,568	無線機(振込料込)、電池パック、 等	
ホームページ	13,996	17,000	△ 3,004	サーバーレンタル料金13,996、更新料(27年度に28年度分も済)	
予備費	5,400	4,361	1,039	前会長送別用花束代金	
次年度繰越金	42,374				
<b>合計額</b>	<b>893,094</b>	<b>664,361</b>	<b>228,733</b>		

2017年 4月24日

港北区災害ボランティア連絡会

監査 山中奈子 村野明美

港北区災害ボランティア連絡会

会長 白井 保

港北区災害ボランティア連絡会

会計 付岡博子 小澤美津子

港北区災害ボランティア連絡会

会 計 監 査 報 告 書


平成28年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

港北区災害ボランティア連絡会会計について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳及び関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ正確であることを証明し、ここにご報告いたします。

平成29年4月24日

港北区災害ボランティア連絡会

会計監査 山中 奈子 

会計監査 村野 明美 

# 参加会員一覧

## 【登録団体】20団体

	団体名	連絡員	
1	横浜北YMCA	山中奈子	
2	港北区ボランティア連絡会	村野明美	鈴木恵子
3	手話サークルあじさいの会	坂上茂子	
4	港北手話サークル梅の会	高梨マサ子	
5	篠原地区ボランティア連絡会	嘉本功子	
6	富士塚ボランティアグループ	小澤美津子	
7	仲手原マザークラブ	井上禮子	
8	公益社団法人ガールスカウト神奈川県連盟第21団	小原信子	
9	国際救急法研究所	宇田川規夫	
10	日本ボーイスカウト横浜第8団	中島一郎	
11	港北区地域作業所連絡会	水越弘子	
12	港北区地域子育て支援拠点 だるまっふ	原美紀	江口知佳
13	一般社団法人 ペガサス	木村志義	
14	横浜北部失語症友の会	室伏俊明	
15	港北区聴覚障害者協会	児玉安代	
16	NPO法人 街カフェ大倉山ミエル	鈴木智香子	
17	社会福祉法人 かれん	新堂泰江	
18	NPO法人 びーのびーの	山口麻津子	
19	ガールスカウト神奈川県第42団	秋山 治美	
20	NPO法人WE21 ジャパンこうほく	砂田 正子	

## 【個人登録】14名

1	寺内章一郎
2	白井保
3	付岡博子
4	室伏俊明
5	中谷健一
6	山本正史
7	中野保子
8	中島美奈子
9	古川卓二
10	野田耕造
11	杉浦明子
12	岩撫義之
13	佐藤米子
14	小松尚子

## 【賛助会員】3団体2名

港北国際交流ラウンジ
小島瑞子
社会福祉法人陽だまりの会
NPO法人ウイル
安藤良男

## 2017年度 事業方針(案)

### ◎防災を自分ごとにするために

世界で一番危険な都市と保険会社から認定されている横浜市ですが、政府が出した地震予測地図でも全国第二位の発生確率の都市となりました。今後30年以内に震度6弱以上の地震に襲われる確率は81%とされています。30年以内に遭遇する確率は、身近な事故である交通事故で負傷するのは15%、空き巣被害は0.8%、大雨被害ですら0.3%ですから、大地震は必ず来るとの認識を持って備えなければいけません。

横浜市の人口は約373万人です。市の最大被害予測では、最大で家屋倒壊や火災などでの住宅被害が約23万戸、避難者数は57.7万人との被害想定を出しています。東日本大震災での最大の避難者数が約47万人、阪神淡路大震災が約32万人でしたから、避難者数の多さが際立っているのが分かります。しかも首都である東京につながっているため、災害時の混乱は今までの災害経験ではカバーできない部分も予想されます。とりわけ避難所や仮設住宅設置場所の不足は目に見えています。それを解決するためには日常からの減災活動を推進していくことが必須となります。

### ◎「話す、伝える」団体へ進化するために

地域での減災活動を推進することは、平常時からその対策を進める知恵を伝えなければなりません。それは地域との関係を深めることにつながります。自分達が学ぶだけの受け身の気持ちではなく、地域での「防災の伝道者」を目指した活動を作り上げ、「災ボラは役にたつ」との評価を頂けるようになる事が求められます。そのためには学習することが必要です。昨年度も実施した会員相互の学習体制をより一層発展させるとともに、積極的に外部とつながり、学ぶ事が求められます。それが災害時のボランティアセンター運営の力にもつながってきます。

### ◎「つながりは、そなえ」を実体化するために

災害は命と生活を奪う出来事です。関東・東北豪雨で大きな被害を受けた常総市の森下町会やJUNTOSとのおつきあいから私たちは様々な学びをしてきました。最大の学びは、被災する辛さ、厳しさと、被災後の復興活動を現場で知る事が出来たことです。それは区内で同じように常総市支援をしている武相高校とのおつきあいにもつながりました。高校生もこんなに頑張っている事実は大きな刺激でした。それぞれの学びを生かしながら、区内、市内、県内、全国とつながりを作っていきましょう。そして各地で起きる災害への素早い対応力を作っていきましょう。

## 2017年度 活動の柱(案)

### ● 「つながりは、そなえ」をつくる災害ボランティア連絡会

#### 1 「会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ、役にたつ災ボラ

- ① メンバーの力を積極的に活かす日常活動
- ② 定例会を相互の学びの場とする活動
- ③ 「楽しい防災」を生み出す活動

#### 2 「地域とつながり、命を守る知恵を出す災ボラ」

- ① 災害ボランティアセンター運営能力を高める活動
- ② 自分の周りを点検し、防災度を上げる活動
- ③ 防災の知識を高める活動
- ④ 町内会や地域防災拠点と連携する活動

#### 3 「被災地とつながり、汗をかいて動く災ボラ」

- ① 区内外の行事に積極的に関わる活動
- ② セイフティーネット分科会など関係他団体とつながり、学ぶ活動
- ③ 支援が必要な災害に対し、積極的に関わる活動



# 2017年度(平成29年度) 事業計画(案)

- 1 各タスクが事業計画に基づき立案、計画、実行をしていくが、タスクメンバーだけでは十分に実行できないこともある場合は、全体でサポートしていく。事前に計画された以外の事業については役員会で検討し、タスクの協力も得ながら会員に提案することで、機動的かつ柔軟に対応していくこととする。

## 2 タスク事業計画

### (1) PRタスク

#### [活動目標]

- ① 港北区災害ボランティア連絡会の認知度を上げる。  
特に拠点関係者との接点を増やす。
- ② 災害発生時の具体的なイメージを分かりやすく伝える。
- ③ 区内、国内外の災害ボランティア活動や防災情報を伝える。

#### [今年度の活動]

- ① 連絡会ニュースを発行する。
  - ・ 会員の自宅の備えを伝えるとともに、会員自身の備えの充実につなげる。
  - ・ 区内で防災活動を積極的に行っている方々をとりあげる。
  - ・ 会員の持っている知恵の共有を進める。  
(災害食、災害時救急法、アウトドアの知識など)
- ② 区内の行事で広報活動を行う。
- ③ 会員がいる地域防災拠点の訓練の際はニュースや連絡会のチラシをセットにして役員の方々に配り、関係を作る。日常的には役員へニュースを届ける。  
会員のいない地区での訓練には、会員が分担して参加し広報活動を行う。
- ④ Dブロックで開かれるIT研修会に参加する。
- ⑤ リーフレットの改訂版を作成する。

### (2) シミュレーション・ハンドブックタスク

#### [活動目標]

- ① 連絡会会員に災害ボランティアセンターの実態を知ってもらうように努める。
- ② DVDの視聴などを通して災害ボランティアセンターの実際を学習する。
- ③ シミュレーションでは、コーディネータースキルアップ訓練を重点に行う。
- ④ 区役所、社協と連携した訓練は継続する。
- ⑤ シミュレーションだけでなく定例会においてコーディネータースキルアップ訓練を行う。

### [今年度の活動]

- ① 総会で災害ボランティアセンターの実際がわかるDVDを視聴する。
- ② 定例会で、受付・登録、マッチング、送り出し、フォローの訓練を行う。
- ③ シミュレーションではコーディネーターの仕事を詳しく説明する。
- ④ 地域、拠点、セーフティネットとのつながりを深める。
- ⑤ ハンドブックの改訂を行う。

## (3) イベントタスク

### [活動目標]

- ① 被災者とのつながりを持つ。
- ② 被災者とのつながりから学んだことを、ボランティアセンター運営にいかす。

### [今年度の活動]

- ① 常総市への支援を継続する。
- ② 実際にボランティアセンターを立ち上げ・運営した方の話をきく。
- ③ 常総市以外の被災地の話を聞く機会を持つ。

## 2017年度(平成29年度)港北区災害ボランティア連絡会 日程

定例会開催予定時間 10:00～11:50

日 程	開催 ・ 場所	内 容 ・ 備 考
4月 19日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	本年度計画 登録 総会準備
4月 23日 (日)	物販・広報活動	ボーイスカウトバザー 白幡小にて
5月 17日 (水)	定例会・総会 区社協多目的研修室	H28年度事業報告・決算報告 H29年度事業計画(案) 予算(案)
5月 21日 (日)	物販・広報活動	らくらく市 菊名地区センター広場
6月 21日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	タスクチームの決定 イベント・シミュレーション&ハンドブック・PR
6月 24日 (土)	高田東小 避難訓練	9:00～
7月 19日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	※夜間開催(18:30～)
9月 20日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	
9月 23日 (土)	鶴見川流域センター チャレンジ!	防災アクション
10月 18日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	※夜間開催(18:30～)
10月 21日 (土)	物販・広報活動	港北ふれあい祭り 新横浜公園
10月 26日 (木)	物販・広報活動	ほくほくフェスタ 港北公会堂及びピロティ
11月 15日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	
11月 26日 (日)	セミナー 区社協多目的研修室	
12月 20日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	
1月 17日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	※夜間開催(18:30～)
2月 18日 (日)	シミュレーション 区社協多目的研修室	
2月 21日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	
3月 28日 (水)	定例会 区社協多目的研修室	総括・次年度の計画

8月休会

※ 各拠点の防災訓練参加やイベントにてPR・物販活動

※ 夜間開催…18:30～

7月、10月、1月の3回

## 2017年度 港北区災害ボランティア連絡会 予算 (案)

2017.4作成

(単位:円)

	科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	説 明	
収 入	会 費	77,000	73,000	67,000	@500×94(正会員) @5,000×4(賛A)	
	参 加 費	52,000	46,800	48,000		
	セミナー	セミナー	12,000	5,800	8,000	@200×40名
		シミュレーション	0	0	0	参加費無料
		その他活動	40,000	41,000	40,000	@1,000×40名 見学会 等
	区 補 助 金	300,000	300,000	300,000	事業費該当	
	社 協 補 助 金	74,000	73,136	74,000	事務費該当	
	物販売上金			250,000	物販売上金	
	雑 収 入	85,000	323,797	40,000	寄付、利息 等	
	前 年 度 繰 越 金	76,361	76,361	42,374		
合 計 額	664,361	893,094	821,374			
支 出	事 務 費	360,000	545,155	496,000		
	通 信 費	通信費	45,000	30,996	45,000	通知文・ニュース・イベント案内送料 等
		消耗品費	75,000	72,900	50,000	文具、コピー紙 等
		会議費	20,000	14,933	20,000	コピー・印刷代金(ニュース・イベントちらし・通知文・資料) 等
		交通費	20,000	20,000	20,000	役員会交通費
		活動保険	15,000	19,510	16,000	天災付ボランティア保険 @500×32
		分担金	15,000	15,270	15,000	横浜災害ボランティアネットワーク年会費 ネットワーク年会費 等
		手話通訳費	75,000	81,728	80,000	手話通訳謝金(セミナー、シミュレーション、研修会他)
		物販仕入れ代金			200,000	物販仕入金(送料・振込料込)
		支援ボランティア活動費	95,000	289,818	50,000	支援ボランティア資材費、会議費 等
	事 業 費	300,000	300,165	315,000		
	セミナー	セミナー	70,000	39,709	40,000	資料印刷費、行事保険、講師謝金、手話通訳交通費、通信費 等
		シミュレーション	15,000	10,475	15,000	資料印刷費、行事保険、手話通訳交通費
		ハンドブック	5,000	297	5,000	ハンドブック改訂印刷費、コピー紙
		リーフレット	5,000	0	20,000	改訂リーフレット作成費 1,000部
		研修会費	100,000	158,214	150,000	謝金、見学交通費、手話通訳交通費、行事保険、資料印刷費、通信費 等
		活動費	30,000	30,042	40,000	災ボラ広報活動・市ネットワーク関連交通費、 イベント参加費、名刺作成費
備品購入費		58,000	47,432	30,000	通信機器購入 等	
ホームページ		17,000	13,996	15,000	更新料1,652、サーバーレンタル料金11,340 等	
予備費	4,361	5,400	10,374			
次年度繰越金		42,374				
合 計 額	664,361	893,094	821,374			

# 港北区災害ボランティア連絡会会則

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この会は、港北区災害ボランティア連絡会という。

(目的)

第2条 この会は、災害時に支援活動を行なおうとする個人及び団体で構成する。平常時、分野を超えた幅広い交流等を通し研鑽する中で災害に強いまちを目指した減災活動を推進する。そして災害時、港北区災害ボランティアセンターを開設・運営する。

(事業)

第3条 この会は、前条に掲げる目的のため、次の事業を行う。

- (1) 災害ボランティアコーディネーターの養成及び支援活動を行うための研修
- (2) 災害ボランティア関係機関や行政との交流と情報交換
- (3) 災害ボランティアの普及及び啓発
- (4) 災害ボランティアセンターの開設及び運営
- (5) そのほか、目的のために必要と認めた事業

## 第2章 会員

(会員)

第4条 この会の会員は、会の目的に賛同した団体及び個人とする。なお、会員は、次の2種とする。

正会員 本会の目的に賛同して入会した団体及び個人

賛助会員 本会の事業を賛助する団体及び個人

2 この会に入会を希望する者は、所定の入会申し込み手続きを経て、定例会で承認される。なお、退会を希望する者は別途に定める退会届を提出するものとする。

3 会員は、以下の年会費を納入しなければならない。又、年度の途中に入会する会員は、入会時に年会費を納入するものとする。

正会員 年額 1口 500円 (2口以上)

賛助会員 年額 A 5,000円 B 10,000円 C 30,000円

4 賛助会員は総会及び定例会に出席できる。ただし議決権は有しない。

## 第3章 運営

(役員)

第5条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長1名
- (2) 副会長2名
- (3) 会計2名
- (4) 書記2名
- (5) 広報2名
- (6) 監査2名

2 役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。補欠により就任した役員任期は、前任者の残任期間とする。

(役員選任及び任務)

第6条 役員は総会において選任する。

2 会長は連絡会を代表し、その統括を行う。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときにはその職務を代行する。

4 会計は連絡会の会費を管理し、会計事務を担当する。

5 書記は連絡会の事務を司り、議事録を作成・保存する。(役員会議事録も作成)

- 6 広報は、区役所及び他の団体と情報交換をし、外部へ発信する。
- 7 会長は活動に伴う作業を行うため、必要に応じて作業部会を設置することができる。
- 8 監査は、この会の会計を監査する。

#### (総会)

第7条 総会は会員をもって構成し、年1回通常総会を開催する。ただし、必要があるときは臨時総会を開催するものとする

- 2 総会は、会長がこれを招集する。
- 3 総会の議長は、その総会において出席の会員の中から選任する。
- 4 総会は、会員総数の過半数の出席がなければ開催することができない。
- 5 前項の場合において、あらかじめ書面をもって付議される事項に意思を表した者は出席者とみなす。
- 6 総会の議事は出席会員の過半数で決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (定例会)

第8条 定例会は、会員をもって構成し、原則月1回定例会を開催する。

#### (事務局)

第9条 この会の運営事務を補助するため、社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会に事務局を置く。

### 第4章 会計

#### (会計)

第10条 この会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。  
2 会計は、年度終了後速やかに決算報告書を作成し、監査を受け、役員会の承認を経て、総会に報告しなければならない。

### 第5章 その他

#### (会則の変更)

第11条 この会の会則を変更しようとするときは、総会において会員総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

#### (委任)

第12条 この会の会則に定めない事項は、会長が別に定める。

### 附 則

#### (施行期日)

- 1 この会則は、平成10年11月26日から施行する。
- 2 この会則は、平成13年6月27日から施行する。
- 3 この会則は、平成15年11月17日から施行する。
- 4 この会則は、平成19年4月18日から施行する。
- 5 この会則は、平成20年4月16日から施行する。
- 6 この会則は、平成21年6月17日から施行する。
- 7 この会則は、平成23年10月19日から施行する。
- 8 この会則は、平成27年1月21日から施行する。